

1学年通信 挑戦

チャレンジ



藤塚中学校1学年
2017年12月21日号



2学期が終わります。

自分を飛躍的に成長させる2学期になったでしょうか？

2学期もあと1日。ふり返ってみると「あっという間だった。」こう感じている人も多いのではないのでしょうか。

2学期は、3ヶ月半あまりありましたね。10月の学年通信で、「2学期をしっかり乗り越えるためのポイント！」という見出しで、中学1年生のみなさんに共通する大切なポイントについて記事にしました。おぼえていますか。

1年生にとっての2学期とは、

2学期の生活は次の点でとても大切です。

- ① 学校の主人公になっていく時
- ② 実力をおおいにつける時

自分の進路を考える上で本格的に基礎学習力をつけておかなければならない時期なのです。

- ③ 自分の将来について真剣に考える時

自分をみがいたり、きたえたりする時が中1時代です。

自分の将来について真剣に考え、そのために今の自分に何が必要なのかをじっくり考える時期です。

もしも、あなたが、「2学期はいい加減に過ごしてしまったな。何をやっても中途半端だったな。」と思ったなら、あなたは、自分のことを客観的に反省する力を持っている人です。

3学期はどうすればよいのか、あなたは自分の力で選べる人なのです。

冬休みは、そのことを考えて、準備をする良い機会にしてほしいものです。

もしも、あなたが、「2学期は悪いことに心が傾いてしまったな。」「人が変わってしまったような行動をとっていたな。」と思ったなら、取り返しがつかなくなる前に、自分の生活を根本から改めなければいけません。

この冬休みをおろそかにしたり、自分の行動を反省もせず油断していると、今後の数年間、自分の生活がどんどん乱れてしまうかもしれません。

これは『楽しい』とか、これは『つまらない』とかだけで自分の行動を決めるのではなく、しっかり立ち止まって、『それをしたらどうなるのか』を考えて行動してください。

不平、不満がたまっていたり、さびしさでいっぱいの方は、特に要注意です。楽なほうに流されることなく、「今、やるべきことはなんなのか」をしっかり選ぶ努力をしてください。

保護者のみなさんへ

冬休みは、季節の行事が次々とやってきます。外出も多くなり、お金の出入りもいつもより多くなりがちです。それと平行してさまざまな犯罪が多く発生する時期でもあります。

子どもたちにとっても自由な時間が多い冬休みは、開放的な気持ちからさまざまな誘惑が存在します。そのため、トラブルや犯罪から子どもたちを守ることも大切な大人の役目となります。地域ぐるみで大人が子どもたちを上手にサポートしていきましょう。

万引きに関わる問題……

最近問題になっている少年犯罪の一つに『万引きの増加』が挙げられます。いうまでもなく、万引きは“窃盗”という犯罪であり、刑法第235条により『10年以下の懲役又は、50万円以下の罰金に処する』となっています。ところが、子どもたちの中には、その認識がきちんとできていない様子も見られ、ゲーム感覚、遊び感覚でその行為をくり返してしまっている状況もあるようです。神奈川県で実施された【子どもの問題行動に関する調査】では、6%の中学生が「万引きの経験あり」という実態が明らかにされています。

理由を調べると、「友だちから万引きした話を聞いて自分も簡単に盗めそうだからやってみた。」とか、「おこづかいがなくなったので、盗んでしまえ！」といった安易な理由から犯罪行為に走ってしまったケースも多いようです。

保護者のみなさんには、日頃から子どもの持ち物や交友関係には十分関心を持っていただくとともに、様子がおかしいと感じた場合には、きちんと子どもと向き合い、機会を逃さずに話し合いをしていただければと思います。また、日頃から、悪いことに誘われても、『きっぱりと断る勇気』をもつ大切さを話していただくとともに、子どもからのサインを見落とさないためのアンテナを高く持つように心がけてください。

深夜徘徊や溜まり場に関する問題……

最近、深夜徘徊で補導される中学生が増加する傾向があります。それと関連して、“溜まり場”と称される公園やコンビニの駐車場に子どもたちが昼夜関係なく集まっているのも事実です。残念なことにその場では、ゴミの散らかし、喫煙といった逸脱行為や迷惑行為が後を絶ちません。さらに、いろいろな世代の人々が集まることでさまざまなことも心配されています。

このように、深夜徘徊や溜まり場の問題は、子どもたちが正常な生活のリズムを失い、非行に走る大きなきっかけの一つでもあります。保護者として、また地域住民の一人として子どもたちの様子を見守っていただき、より一層の注意を払うとともに、もしも、お子さまにそのような兆候が見られたときは、たかが「夜間外出」・「単なる友だちづきあい」だと思わずにしっかりと声をかけてあげてください。